



5月も半ばを過ぎました。日中は夏を思わせるような気温になる日もありますが、子ども達は元気いっぱい、園庭で走ったり、砂遊びをしたり、自分のやりたい遊びを存分に楽しんだりしています。先日から、各クラスで布に手形や模様を描いたりうろこをつけたりした『手作りのこいのぼり』を、ぐんぐんタイムの前にみんなで掲揚台に付けてあげています。風の吹く日は気持ちよさそうに泳いでいますよ。良かったら、お迎え前にでもご覧ください。

いろいろな体験をしています

本園は、園内での活動だけでなく、地域の自然や文化に触れたり、地域や保護者の方の教育力を活用したりして、いろいろな体験をし、遊びや学び、心情を育むようにしています。

年長あお組は「あお組探検隊」と称し、木綿街道や川を見たりしています。年中き組は、自分達で素材を組み合わせて作った「双眼鏡」をもって、いろいろなものを発見に園外保育に出かけています。年少りんご組は、6月に年中児と共にバスに乗って上津の「カエルランド」へ出かける予定です。13日(月)には、年長児が平田消防署へ見学に行きました。(年長児の保護者の方が勤務されており、実現しました) 普段入ることのない消防署の中に入り、無線のある部屋や消防服がかかっているのを見たり、消防士さんは24時間働いておられることを知ったり(仮眠はあるそうです)、実際に放水の様子を見せてもらいその迫力に驚いたり、救急車の中へ入らせてもらったりするなど、普段できない経験をたくさんさせていただきました。

今年も、園内の畑でいろいろな作物を育て、お世話をしたり、生長の様子を観察したり、収穫を喜び合ったりします。近々、玉ねぎの収穫をする予定です。年長児は田植えの見学もします。畑や田んぼの活動では、地域の方にお世話になります。

毎年継続していただいている「めだかのおはなしやさん」。保護者の方がボランティアで、月に1回各クラスで絵本の読み聞かせをしていただきます。担任とはまた違った読み語りに、子ども達も絵本の世界に引き込まれていきます。

6月の「ひらたっこきらりんまつり」の終わりに、みんなで「平田音頭」を踊る予定にしています。職員が踊りの振り付けに自信がないと言ったところ、PTA委員で年中児の保護者の方が、子ども達(職員にも)に教えに来てくださいました。おかげで、それから毎日のぐんぐんタイムで踊り、随分覚えて踊れるようになりました。

このように、園内だけではなく、たくさんの方々に支えられて、子ども達の楽しい活動ができていることを改めてありがたく思っています。もしよければ、ご自身の得意なこと・好きなことを子ども達に教えたり、披露したりしてみられませんか?おうちの方が来てくださると、子ども達はとても喜びます。お声がけください。



平田消防署へ見学に行った年長児



「消防士さん、かっこいいね」「消防車には、色々な物が入っているんだね」



ぐんぐんタイムで踊る平田音頭

自分で気持ちを切り替えたり、気持ちの折り合いをつけたいすることの大切さ

先日、こんなエピソードがありました。

新しい上ズックの形があまり気に入らなくて、登園後玄関でお母さんから離れようとしないうちで泣いていました。お母さんは「明日、前と同じズックを準備するから、今日はそれを履いてね」と言われますが、なかなか納得できないようでした。それでも教師や友達に誘われて、ゆっくりと保育室へ向かいました。保育室に入り、友達といつもの生活をするうち、すっかりズックのことは気にならなくなったようで、笑顔いっぱい遊んでいました。お昼前、お母さんが新しいズックを準備して園へ持ってこられました。きっと、ズックが気に入らなくてしょんぼりしているかもしれないと心配されたのでしょう。私が、ズックのことは忘れて笑顔で遊んでいることを伝え、もしよかったら今日はそのままの状態にしませんか？と提案しました。お母さんも「自分で気持ちを切り替えられたんですね。」と嬉しそうに話され、せっかく準備していただいたズックを持って帰っていただきました。お帰りの時にその子に「思ったのと違うズックだったけど、今日は我慢できたね。」と褒めると、嬉しそうに笑っていました。この子は今日の出来事で、『自分の思い通りにならないこともある』ということを経験しました。きっと、少しずつ自分で気持ちに折り合いをつけることができていくと思います。次の日は、気に入った形のズックを履いて嬉しそうでした。（保護者の方の了承を得て、書かせていただきました）

幼稚園では、3年間のそれぞれの発達に応じて、また一人一人の育ちに応じた援助をし、より良い成長ができるように支えています。たくさん学びの中でも、幼稚園から小学校以降の生活の中でも大切な力となるのが『自分の思いを言葉で伝える』『自分で気持ちを切り替える』『気持ちの折り合いをつける』ことです。どんなに良い考えをもっていても黙っていては人に伝わりません。自分の思い通りに行かないことがあったり、上手くいかないことがあったりして、悔しい気持ちをもつことは成長するうえで大事ですが、いつまでも負の気持ちに引きずられていると先へ進めません。友達とトラブルがあった時に嫌な気持ちを出し合うことはとても大事ですが、自分の主張ばかりしては人の気持ちが分からないままです。こんな姿は、幼稚園生活の中でたくさんあります。その都度、担任は「嫌だったね」「悔しかったんだね」など、その子の気持ちに寄り添いながら、思いを伝える方法を一緒に考えたり、自分で気持ちが切り替えられるように見守ったりします。子ども達は『ちょっと頑張れば乗り越えられる段差』を自分の力で乗り越えた時に成長していきます。最初から「失敗しないように」と大人が段差を取り除いては、せっかく成長できるチャンスをみすみす奪っていることとなります。上記のエピソードでは、せっかく持ってきてくださったお母さんに「持って帰ってください」と言うのはとても心苦しかったのですが、お母さんが「園の思いと子どもの成長」を理解してくださり、本当に嬉しかったです。

また、困ったことがあった時、学年の発達によってや、一人一人の育ちに応じて、少しずつ自分の言葉で伝えられるように援助しています。給食時の箸やマスクを忘れた時、子ども達は担任にそのことを伝え、職員室へもらいに来ます。なかなか言い出せない子もいますが、ゆっくり関わっているうちに「お箸を忘れたので貸してください」と言えるようになってきています。『困った時に誰かに伝えたら助けてもらえた』という経験がとても大事だと思います。これから先、できることばかりではなく、困ったことも多いと思います。そんな時に誰かに助けを求められる、そんな子どもに育てほしいと願っています。ですから、箸やマスクを忘れたからと言って慌てて園に持ってこられなくて大丈夫です。自分で困ったことが伝えられる成長の大きなチャンスです。ただし！忘れてばかりは困ります。準備はお子さんと一緒にするようにしましょうね。そして、箸を借りたら、翌日割り箸を持ってきてください。よろしく願いいたします。

思いを伝える場として、各クラスで遊びの後に「お話タイム」を設けています。楽しかったことや気付いた事などを話します。各学年によって姿は様々ですが、共通して大切にしていることは「話を聞いてもらう嬉しさ」「友達の話を聞く大切さ」です。話を聞く「形」ではなく、話を聞いてもらうと嬉しい、次は友達の話も聞こう、と、心情を大切に育てているところです。